



# チームワーク

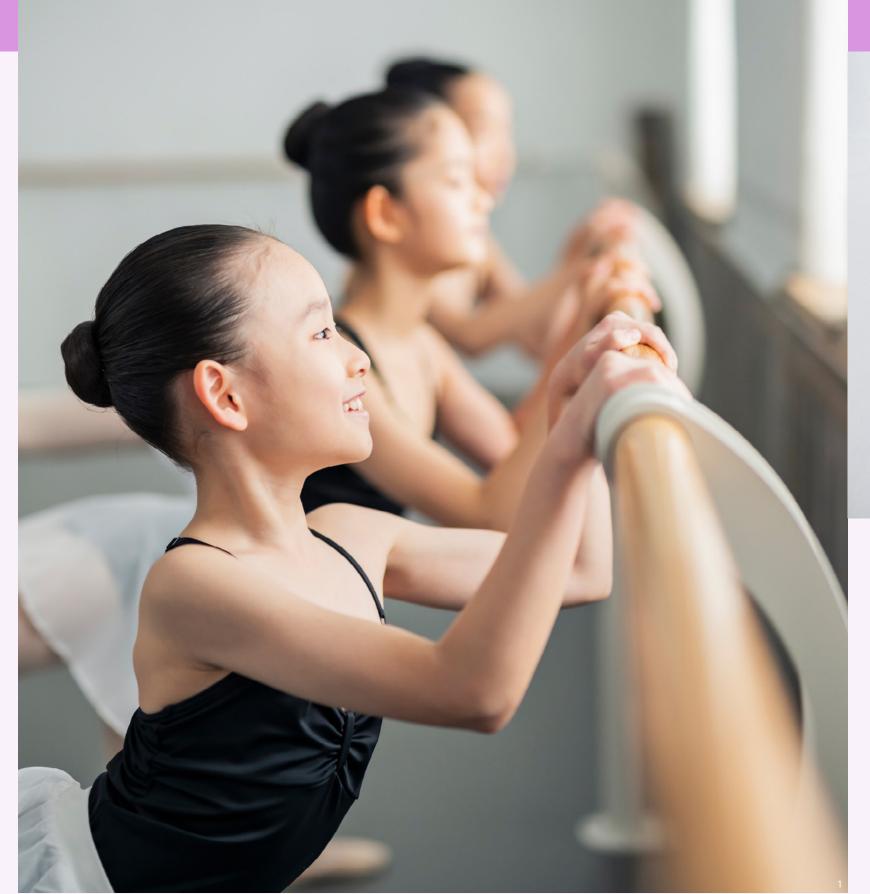
集団で過ごす時間や、協力して何かを成し遂 げる様子を描く姿が多く表現されています。

孤立した時間が長くなるにつれ、地域の人達や仕事仲間と 公共の空間で再び時間を過ごしたいと考えたり、遠く離れた 家族や身内を、自宅に迎え入れたいと思う人が増えるように なりました。

多くのブランドメッセージに見られるよう、再び自宅以外の 場所で働いたり、旅行したり、遊んだりすることは、人々がプ ライベートな自分だけの生活から抜け出したり、日本中の 企業や旅行、サービス業を支えたいという願望を反映すると いったニーズを支えています。

このトレンドは、単なるライフスタイルの多様化だけでなく、 私たちが実生活でいかに個性的で多様性に富んだ人達と 社会生活をしていることを反映しています。そのため、キャス ティングはこれまでの日本人像ではなく、様々なタイプのモ デルが採用されていることが重要視されます。

### コレクションを見る











## 約2,100万人

これは、2022年12月23日~1月3日の年末年始に 日本国内で旅行する予測人数で、2019年比で72 %回復する見込みであることが、株式会社JTBの 調査により明らかになりました\*

### **Adobe Stock Artists:**

1. One | 465687486, 2. Gttkscg | 415701272



<sup>\*</sup> https://www.bloomberg.com/news/articles/2022-12-21/foreign-visitors-to-japan-jumps-for-second-straight-month-after-reopening

<sup>\*\*</sup> https://tokuteikenshin-hokensidou.jp/news/2022/010858.php

# セルフセレブレーション

コロナ禍が後押しする、自分らしさを受け入れる 社会

日本では昔から、個人が集団のアイデンティティに適合する ことが重要視されてきました。しかし、近年、集団に適合する 傾向が強まり、その結果、適合できない人たちの孤立化が進 み、自分自身のアイデンティティーの重要性を大切にするこ とが認識されつつあります。

そのため、多様なアイデンティティへの認識や評価はゆっくりですが、着実に高まっているようです。自己認識と多様性の認識が相まって、自己を讃えることが広く日本人の中で浸透する中、ブランドメッセージでは、あらゆる年齢、アイデンティティ、関係性などが、肯定的で、幸福や自信を持って表現されていることが増えているように見受けられます。

特筆すべきは、日本の日常生活や社会における男性のジェンダーに対する概念が変化してつつあること。男性が楽しむ活動の広さは幅広く、より多くのタイプのアイデンティティが表現されています。

ファッション、ビューティー、家庭用品など、以前は女性モデルだけだった領域に男性が積極的にキャスティングされており、家事や育児、身だしなみを整えている姿が描かれるようにもなりました。

### コレクションを見る









### **Adobe Stock Artists:**

1. Yamasan | 450606477, 2. ZHPH Production - Stocksy | 537946078, 3. Pansfun Images - Stocksy | 333015907, 4. Buritora | 527715908, 5. One | 440600135







## 約 70%

ある調査では Z世代の約70%が、 自分のアイデンティティが認知され、受け 入れられていると回答しました \*\*

### **Adobe Stock Artists:**



<sup>1.</sup> Metamorworks | 210496276, 2. LGBTQ+ | 531240091, 3. Curbon | 304589504, 4. Adobe Stock\_Japan | 501216487

<sup>\*</sup> https://seikatsusoken.jp/teiten/answer/798.html \*\* https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000029.000020614.html

